

満洲・上海・東京 — 蕭紅の揺れる自画像

参加
無料

はまだ まや

講師：濱田 麻矢氏（神戸大学大学院人文学研究科 教授）

日時：2022年2月18日（金）14：30～16：30

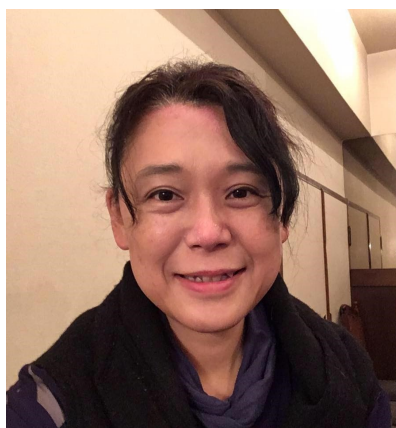
会場：熊本学園大学 新1号館みらい 131教室 ※Zoom同時配信

締切：2022年2月15日（火）※事前申し込み必要

※対面参加は、学内者のみとさせていただきます。

※状況により、直前にオンライン開催になる可能性がございます。

※検温の結果によって、入場をお断りする可能性があります。



<プロフィール>

【略歴】 1969年生。兵庫県出身。京都大学大学院文学研究科博士課程を単位取得退学（中国語学中国文学）。人文科学研究所助手、神戸大学文学部専任講師を経て2000年より助教授、2007年より神戸大学大学院人文学研究科准教授、2018年より同教授。2018年 博士（文学）（京都大学）。

【専門分野】 中国現代文学。二〇世紀の中国語文学に現れる女性表象に関心を持っています。中華人民共和国に限らず、台湾や香港、あるいは米国、東南アジアの華僑が中国語を用いて創作した文学における女性像の変遷を文学史全体の中に位置づけることが最終的な目標です。ライフワークは「女学生」。近代以降の中国に出現した教育された女性たちがどのように自身を綴ったのか、また他者は彼女たちをどのように眺め、表象したのかについて考え続けています。

【主な著書・論文】 『少女中国 書かれた女学生と書く女学生の百年』（岩波書店、2021年）、張愛玲『中国が愛を知ったころ』（単訳、岩波書店、2017年）、共編共著『漂泊の叙事——一九四〇年代東アジアにおける分裂と接触』（勉誠出版、2015年）など。

今も多くの人に読み継がれている蕭紅（1911～42）の小説には不幸な人々を淡々と書き上げるものが多い。同時期の女性作家たちが知識人女性の苦悩を繰り返し描いたのに対して、蕭紅はインテリ女性の姿を正面から捉えることはなかった。ハルビンの女学校で脱落する貧しい少女を描いた「手」（1936）、自身の故郷を追憶する『呼蘭河伝』（1940）などでも、作者を思わせる語り手「私」は目の前の悲劇を語ることに終始し、何か行動に出ることはない。蕭紅自身は教育を受けるため、あるいは旧式結婚を逃れるために家からの出奔を繰り返していたにもかかわらず、女性の叛逆がテーマとして選ばれなかったのはなぜだろうか。彼女の散文作品を中心に考えてみたい。

【お申し込み方法】 ご氏名、ご所属、連絡先、メールアドレス、参加方式（対面式もしくはZOOM）を明記のうえ
kaigai@kumagaku.ac.jp までメールにてお申し込みください。

※お申し込み受付後に「申し込み受付完了のお知らせ」メールをお送りいたします。

【ZOOM参加者】 参加用URLは、2月16日（水）17時までにメールにてご連絡いたします。

※「Zoom」の使用法・操作法などのテクニカルサポートは行いませんのでご了承ください。

問い合わせ先

熊本学園大学付属海外事情研究所（担当：学術文化課）

〒862-8680 熊本市中央区大江2-5-1 Email：kaigai@kumagaku.ac.jp

TEL：096-364-8731（直通）/ FAX：096-364-5201（専用）

【月～金曜日】8：45～17：15（12：30～13：30は除く）